

平成27年度事業報告

上野丘さつき会 本部

虐待防止委員会では27年度に構成委員の一部を入れ替えて総委員数を増やしました。そして、全職員を対象に虐待発見チェックリストを3か月毎に実施し、これを回収しました。

27年度中に虐待案件は有りませんでした。これを第三者委員に会議に出席して頂いて、5月と11月の2回報告をしました。

全職員を対象とした研修では常盤大学教授の橋本好市氏を講師に迎えた人権擁護についての研修会を開催しました。また、チェックリストの記入についての勉強会を開催し、質問事項の理解を深め、記入要領について役員から説明をしました。

安全衛生委員会は衛生管理者等による職場内の週一回以上の定期巡視とその記録の作成、安全衛生委員会の月一回の定期開催を継続しています。

27年度は新たな取り組みとして、改正労働安全衛生法に基づいて、調査表を用いた職員のストレスチェックを実施しました。

また、神戸西労働基準監督署へ産業医名で職員の健康診断結果報告書を提出しました。

耕作放棄地の復元を含めた農業における地域貢献については、農福連携の追い風を受け、27年度の耕作面積は367aでした。28年度の耕作面積は約2倍となる計画です。

27年度事業として、神戸やまぶき財団から300万円の助成を受けてトラクターを購入しました。

上野丘更生寮の一般棟のスレート屋根の折板葺き改装工事は28年3月15日に着工し、4月29日に完了しました。

また、上野丘学園児童棟裏に駐車場を整備し、20台分の駐車スペースを確保しました。

水道の引き込み管の口径を25mmから40mmへ変更し、そのメーターの入れ替えと、受水槽の6tから12tへの据え替え工事計画について、27年度に水道局と協議を進めてきました。水道工事業者の計画申請の認可が下りれば、28年度に工事を行う計画です。

加えて、高置水槽を老人棟横の元の位置に移動させます。

平成27年度事業報告

上野丘更生寮 介護給付事業 (施設入所支援・生活介護)

27年度は業務引き継ぎの際の情報共有、引き継ぎ時間の工夫をしました。職員の朝礼や利用者の状態の報告に対する意識が定着し、情報共有や引継ぎがスムーズに行えるようになってきました。また、ケース記録の整備に注力しました。必要な情報が多くの職員に早く伝わるよう努め、状況把握と観察強化を図っていきます。

加えて、利用者の安全と安心に資する設備の拡充として、上野丘更生寮の主要3棟の廊下の録画をしています。

日中活動は個々の特性や体力等を考慮し、グループを分けて活動を提供しました。

屋内軽作業は、緩衝剤の袋詰めを中心に嚙下体操や機能維持の取り組みを行いました。現在の機能訓練は、兵庫県立総合リハビリテーションセンター内、総合リハ訪問看護ステーションから理学療法士らを招き、利用者にあった取り組みについて指導を仰ぎました。機能訓練だけでなく、日々の支援の中での疑問を解決して頂く場となり、実りある研修となりました。今後も取り入れます。

羊毛のごみ取り作業は継続しにくいため中止しました。また、歩行訓練も長距離が難しい利用者も増えてきたので、集団歩行と個別歩行とに分けて実施しました。

学園の年長児もこれまで通り週4回、共に活動しました。スムーズな移行に向けた取り組みですが、希望通りの入所は困難な状態が続いており、27年度は学園からの受け入れはできませんでした。

屋外作業は、これまで通り訓練等給付事業の利用者と共に個々の特性を考えてグループを分けて活動しました。所属している活動班が合わない状態の時は、別の班に参加できるよう配慮しましたが、利用者と支援員の配置がバランスに欠け、平均した支援提供が困難な状態がありました。状況に応じた活動の提供を行いながら、適正な人員配置ができるよう調整していきたいと考えています。

旅行は生活班が京都(宿泊)と淡路(日帰り)、リサイクル班は伊勢方面、農耕班は四国方面へ出かけました。体調を崩す利用者もなく無事に終わることができましたが、生活班においては体力的に宿泊に対応できない利用者も数名見受けられました。28年度も旅行はしますが、無理のない日程で参加して頂けるよう計画します。

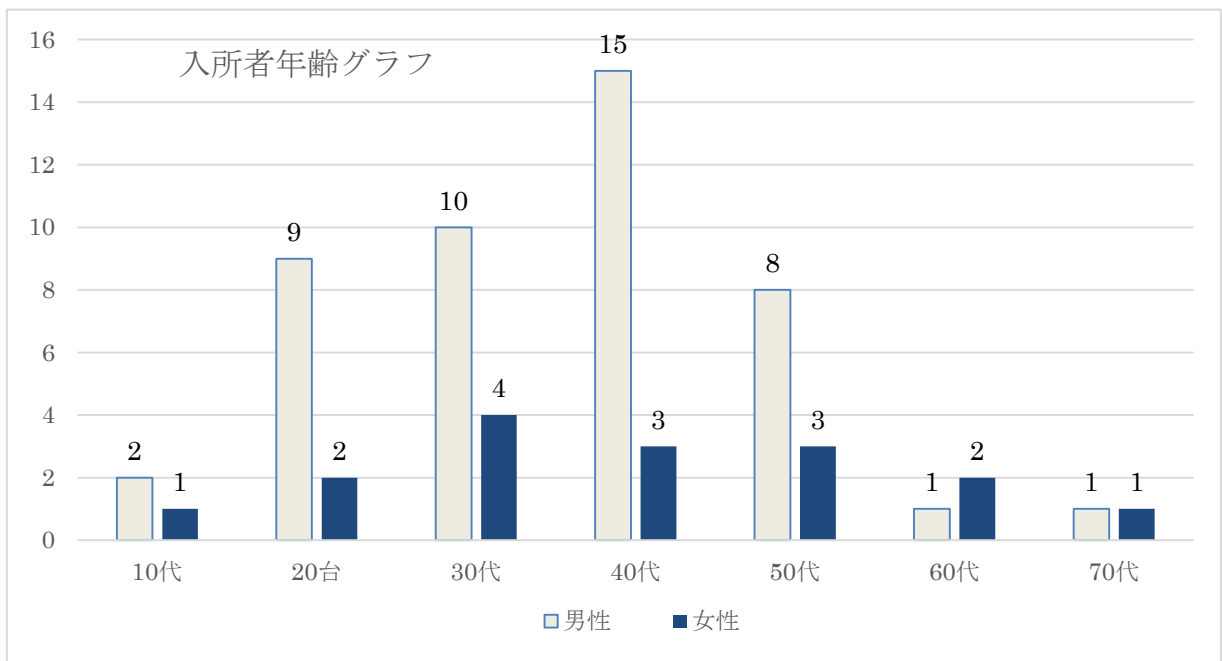
入所者数については、27年度中に3名が介護保険施設へ移行され、1名が自宅へ戻られました。年度中に3名、28年4月に2名が入所され満床の状態です。高齢者に特化した取り組みが難しいので、今の設備での対応が難しくなった方については、主治医や家族と相談しながら移行に向けた支援を行っています。

28年度以降も心身機能に合った場所で生活してもらえるよう取り組んでいく必要があると考えています。

平成27年度利用登録状況（入所定員60名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初日利用者数	63	64	64	64	64	63	63	63	63	63	64	63
月途中終了者数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
月途中開始者数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
月末日利用者数	64	64	64	64	63	63	63	63	63	64	63	62

平成28年4月に2名入所



平成28年3月31日現在 男性46名、女性16名。

最高年齢が73才、最低年齢が19歳、平均年齢は約41.3才となっています。

平成27年度事業報告

上野丘更生寮

訓練等給付事業（就労継続A型・就労継続B型・就労移行・生活訓練）

短期入所事業・共同生活援助

これまでも就労継続A型、就労継続B型、就労移行、生活訓練の訓練等給付事業は、一体的に事業を行ってきました。社会生活への自立や経済的自立を目的として、働く事を基本とした日中活動を行い、地域生活への移行に向けて総合的に施設支援を行っています。

平成27年度は、施設入所支援からアパート等での一人暮らしに男性利用者1名が地域生活に移行しました。前年度には、14人の利用者を地域生活に移行しましたが、其々なんらかの問題を抱えており、地域での安定した生活が出来ていません。これらの地域移行者の生活実態を踏まえて、今年度の地域生活への移行支援は積極的に行いませんでした。

社会的問題を持つ、行き場のない人達や罪を犯した触法障害者にも施設支援を行ってきましたが、平成27年度は矯正施設からの受け入れは行っていません。しかし、入口支援（※）として1名を措置にて受け入れました。

（※入口支援とは執行猶予、起訴猶予等の状態にあり、今後の行為次第で矯正施設に収容される恐れがある者に対して再犯を予防して矯正施設に収容されないようにするというものです。）

平成27年度の利用者の訓練等給付の収入状況ですが、平成26年度に見られた長期の無断外泊や通所拒否等による著しい通所率の低下等はありませんでしたが、地域移行等による退所等で利用者が減員して給付額が減収しています。

平成27年度の訓練等給付4事業合計で67,722,878円、前年度の72,139,767円に対し、給付額にして4,416,889円、前年度比約-6.1%の減収となっています。

平成27年度の日中活動の作業収入支出状況ですが、総収入42,310,383円、前年度収入38,704,798円に対して前年度比約+9.3%、収入額にして3,605,585円の増収となっています。

作業収入の内訳として、施設外就労作業収入は23,209,659円、前年度の収入22,825,830円から金額にして383,829円、前年度比約+1.7%の増収となっています。

農耕作業収入は17,168,067円、前年度の収入13,729,141円から金額にして3,438,926円、前年度比約+25.0%の増収となっています。

平成27年度の総支出39,963,589円（利用者工賃を含む）、収入に対する支出比率約94.5%、前年度比、約-0.35%の支出減となっています。

利用者工賃ですが前年度は、総支払額 21,264,288 円、工賃支給対象者 59.3 人、支給対象者平均工賃月額 29,882 円で総支出に対する工賃割合約 53.2%でした。これに対して平成 27 年度は、工賃支給対象者 61.6 人に対する工賃総支払総額 21,840,131 円、支給対象者平均工賃月額 29,545 円で総支出の工賃割合約 54.7%となっています。

日中活動内容ですが、施設外就労グループは社会適応を目的とした施設外就労を有馬ロイヤルGCとジャパンメモリアルGC、ローターリーGCの3カ所のゴルフ場に加え、西区の流通センター内のコープ自然派とフルーツ・フラワーパークで継続的に行いました。

農耕作業グループは近隣の不耕作化した農地を地権者の作業委託を受け水稲作付面積を拡大しています。実績として近隣の4地区合わせ水稲作付面積 367a、米の販売収入は、5,243,220 円でした。これは農作業収入の約 30.6%を占めています。野菜のハウス栽培を中心とするアグリストKOBEGRUPPも北区の「農でデザインする福祉のまちづくり」と連携して生産活動を行い、軟弱野菜を中心に安定した生産物の供給が来ています。

施設内において、利用者の働く場所の拡大を狙いとして厨房内で実習を行いました。本体施設の厨房にて3名の利用者が1日に1人配置として、交代で週6日間入りました。加えて、施設外就労グループ等の弁当作りに平日の午前中、週5日間1人の利用者が調理補助として取り組んでいます。

余暇活動状況ですが、日頃の日中活動の基本は働く事を主体していますが、その分旅行は気分転換等を目的としました。農耕グループが10月に香川県、金毘羅方面に1泊2日、施設外就労グループは7月に遠足として広島県にプロ野球観戦、1月に長崎・雲仙方面へ2泊3日の利用者親睦旅行を実施しました。

また、5月の陸上大会や2月の綱引き大会等に出場して、スポーツ活動にも積極的に取り組みました。

(事業別報告)

就労継続A型事業

当事業は、平成21年度より定員10人で事業を開始して6年が経過しています。工賃については、10月の最低賃金の改正に伴って、時間給を776円から794円に変更して支給しました。

平成27年度当初は、7名の雇用保障を行い、6月末より行方不明であった利用者1人を保護してサービス利用を再開し、合計8名の雇用保障を行いました。

3カ所のゴルフ場を中心に施設外就労を展開して工賃を支給しました。利用者の居住

場所は、短期入所（上野丘更生寮）1人、グループホームの利用者4人、アパートでの一人暮らし3人です。いずれの利用者も生活費等に保護者等からの金銭的援助がありません。経済基盤の確保が継続的に必要であるために、経済的自立を目的とした支援を継続して行っています。

就労継続B型事業

平成27年度当初は、定員35人に対して実利用者数28人での事業実施となりました。年度途中で在宅復帰1人、他事業所に利用変更2人で合計3人が退所しました。また、新規のサービス開始が1人で年度末には25人の実利用者数に減員しています。

利用者の生活場所の状況は、入所施設支援の利用者で経過措置者5人と短期入所と併給で2人、この他、施設からグループホーム等の地域へ移行した人達や在宅で暮らす利用者が中心になっています。

日中活動内容は農耕作業を中心に行いましたが、加齢等の理由により一般就労が難しい傾向があります。地域で生活している状況を考えると作業工賃による収入の確保が必要であり、農耕収入の向上に合わせて日額50円の引き上げを行いました。それだけではまだ目標工賃が達成できないため、成功報酬となっている加算等が次年度は外れ給付費が減収します。このことから工賃額の引き上げが必要になっています。

農耕作業収入は、増収となりましたが、前述の工賃額の向上に向け経費等の支出、作業の効率等の更なる改善が急務となっています。

就労移行事業

現在の就労移行事業の就職状況ですが、平成23年度に1名の就職者を出しましたが、その後の就職者がありません。サービスの利用状況ですが、平成27年度当初は10人の定員に対して現員は1人でしたが、年度途中で生活訓練事業からのサービス変更で1人が利用開始したので、2人の実利用者数となっています。

本事業の見直しを懸案事項としていましたが、今年度においても改善するに至っておりません。

生活訓練事業

当事業は、現在10名定員の事業ですが、その必要性から利用率が高く、これまでは定員を越えた定員緩和による実利用者数でサービス提供を行ってきました。決められた有期限内（24か月～36か月）では準備が整わず地域生活に移行出来ないため、施設入所を継続させる必要があり、他の訓練等給付事業にサービスを変更するという方法により、前年度は利用者数が6人と減員していました。平成27年は、4月に新規の利用開始が3人（児童養護より2人、在宅より1人を施設入所で受け入れ）、地域生活への移行によるサービス終了が1人、就労移行へのサービス変更が1人で年度末には、実利用

者数7人となっています。

日中活動は、社会適応を目的として施設外就労のコープ自然派を中心に行いました。施設から地域への移行を目的として、調理実習や掃除、整理整頓等の方法の習得に向けた訓練や外出の機会を使い、施設以外の場所において金銭の使い方や交通機関の使い方、ルールやマナーに対する意識の向上等、社会適応訓練の実施をしました。

短期入所事業

平成27年度もこれまでと同様に16人定員で事業を実施しました。延べ利用者数5797人、1日平均利用者数15.8人、稼働率98.7%、ほぼ満床で稼働し、施設入所待機のロングステイが常態化しています。

また、短期間の施設体験やレスパイとして短期入所を利用されるケースがあり、2人の体験短期入所と緊急短期入所2人、レスパイト3人にサービス提供しています。

平成27年度も高稼働率を維持しています。給付収入37,632,994円、前年度給付収入37,351,649円と前年度比約+0.75%、収入額にして281,345円と僅かではありますが、増収となっています。

グループホーム（共同生活援助）

現在7か所のホームで33人定員の事業を行っています。平成26年にホームさかえを設置して以降、ホームの設置を計画していましたが、具体的な設置計画が出来ておりません。

入居者のホーム利用状況ですが、ホームありのを利用していた女性入居者1人が就職に失敗し、その後不安定な生活状態であるため、本体入所施設にて保護しています。また、ホーム南口の男性2人は近隣において問題行動があり、同じく保護をしており、前年度から保護している男性入居者1人と合わせて4人の入居者が本体施設で生活しております。本体施設の空き状況等に合わせて入退去調整と順次サービス変更していきます。また、行方不明のホーム南口の男性利用者1名を本体施設にて保護し、1月からホーム南口に復帰しています。

6月にホームよしおからホームさつきへ男性利用者が転居し11月にホーム南口の男性入居者1人が退去、2月にホームよしおに通所利用の男性利用者が入居しております。平成28年3月現在で男女各1人の定員に空きがあります。

また、グループホームの利用者同士の関係性や日中活動や休日の課題等が多く見られ、其々に本体施設と連携しながら対応しています。

平成27年度の給付収入48,250,023円、前年度給付収入47,991,730円と前年度比+0.53%、収入額にして258,293円の増収となっています。

平成27年度事業報告

上野丘学園

1. 生活介護・施設入所支援（18歳以上の入所者に対する支援）

- 平成27年4月より、18歳以上（生活介護）の利用者が9名（A君・B君・C君・D君・E君・F君・G君・H君・Iさん）在籍しており、その内、A君・B君・C君・D君・Iさんの5名は職員1名を配置し、上野丘更生寮（生活介護）と共に日中活動を行い、日中の訓練の場と夜間の生活の場の区別の意識付けの訓練を引き続き行いました。

また、E君・F君・G君・H君の4名は職員1名を配置し、年間を通して道の駅淡河の清掃作業（男女トイレ・駐車場のゴミ拾い等）とリサイクル作業（空き缶等）を行い、その他、農耕作業・施設整備等を行い、作業継続できるよう支援しました。

道の駅淡河の清掃作業で得た作業収入は、各利用者に工賃（年間 50,110 円）として配分しました。

- Jさんは引き続き、一般就労（株式会社マルハチ 三田店）に自力通勤している。
また、引き続きKさん・Lさんは夜間を上野丘学園の施設入所支援を利用し、日中を就労継続支援 B 型の事業所（社会福祉法人“風”三田わくわく村 [Kさん]）（特定非営利法人“ひやしんす”ほっとステーションぽてと[Lさん]）にそれぞれ自力通勤している。

2. 知的障害児入所支援事業（18歳未満の入所者に対する支援）

- 平成28年3月にMさん・N君・O君・P君・Q君・Rさんの6名が兵庫県立神戸特別支援学校高等部を卒業し、その内、Mさんは一般就労（パスカ三田）し、上野丘更生寮の共同生活援助事業を利用することになり退所しました。

その他、N君・O君・P君・Q君・Rさんは上野丘学園の生活介護・施設入所支援事業で支援を行いました。

- 新たな入所者は無く、定員30名に対して、現員31名と短期入所の長期利用者1名です。

3. 職員配置について

- 7月に調理員等兼栄養士のパート職員1名が退職しました。平成27年5月に児童指導員（女子）1名を採用し、調理員等も採用予定です。学校関係、福祉人材センター、ハローワーク等にも募集をしましたが人材不足で新たな人材の確保はできなかった。

4. 短期入所・日中一時支援事業

- 短期入所事業については引き続き併設型定員4名で実施しました。

- ・ 障害者地域生活支援センター・特別支援学校・こども家庭センター等各関係機関との情報を共有し、広報活動を行い、利用延日数492日で8名の契約の内、新規契約者が1名増員となりました。

また、日中一時支援も上記と同様に広報活動を行いました。利用延日数12日で8名契約のうち新規契約者が1名でありました。

5. 施設整備について

- ・ 食材保管の保冷库・業務用大型洗濯機・公用車のライトバンの補助金申請については出来ていないが、食材保管の保冷库・業務用大型洗濯機については、平成28年度に補助金申請し、購入予定です。(共同募金会は28年度に選考し、事業実施は29年度となります。)

6. その他

- ・ 職員の研修会

全国知的障害者福祉関係職員研究大会・高知大会

近畿地区知的障害関係施設職員研修会

上野丘更生寮、生活介護職員と共に兵庫県（五色精光園）施設見学性についての研修会

- ・ 虐待防止法に伴う、全職員対象の施設内研修を実施しました。

平成27年6月24日 利用者に対する虐待について（下関市の事案について）

1班

平成27年6月30日 利用者に対する虐待について（下関市の事案について）

2班

- ・ 新人職員を対象に防災教育を行いました。

4月22日 重度棟にて自動火災報知設備・火災通報装置・機械の操作（アラーム弁の位置の確認・スプリンクラーの仕組み）等の説明を行いました。

5月12日、安藤防災（消防設備会社）を迎えて、消火器による消火訓練・重度棟廊下設置の消火栓を使用しての放水訓練を実施しました。

- ・ クラブ活動として、エイサー隊・フットベースボール・綱引き等の活動を行い、また、他施設の行事及び、地域の行事等に積極的に参加し、利用者の見聞を広げました。

- ・ エイサー隊活動状況

4月12日(日) 第12回藤原台さくらまつり 主催：藤原台ふれあいまちづくり協議会

6月28日(日) みんなでわいわいチャリティーコンサート 主催：ハートフルクラブ

7月20日(月) 兵庫県土建一般労働組合北支部 記念式典

- 7月30日(木) 三田わくわく村納涼大会 主催：社会福祉法人“風”三田わくわく村
- 8月23日(日) 第11回うらら夏祭り 主催：介護老人保健施設 うらら
- 11月8日(日) ハートフルふぁんどフェスタ 主催：兵庫県遊技業組合連合会青年部会
- 12月13日(日) ハートフルカーニバル 主催：ひょうごかぞくねっと
- 3月6日(日) みんなでわいわいチャリティーコンサート 主催：北神区民センター
- 3月20日(日) ふれあいフェスティバル 主催：しあわせの村温泉健康センター